

徳山工業高等専門学校

目 次

I	選択的評価事項に係る評価結果	2-(10)-3
II	事項ごとの評価	2-(10)-4
	選択的評価事項A 研究活動の状況	2-(10)-4
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	2-(10)-6
<参 考>		2-(10)-9
i	現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(10)-11
ii	目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(10)-12
iii	選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(10)-14
iv	自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(10)-16
v	自己評価書等リンク先	2-(10)-17

I 選択的評価事項に係る評価結果

徳山工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項A 研究活動の状況」において、目的の達成状況が良好である。

徳山工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において、目的の達成状況が良好である。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 中期計画において、正規課程の学生以外に対する教育サービスの目標を明確に位置付け、徳山高専夢広場における「イングリッシュルーム」、「夏休みジュニア科学教室」、「周南オープンカレッジ」、各種公開講座などが、学校をあげて多彩に取り組まれているとともに、幅広く継続的に企画・実施されている。
- 徳山高専夢広場は、正規課程の学生以外への教育サービス活動をはじめ様々な取組に活用されており、地域社会との連携・協力体制の下、街中のサテライト施設として地域と学校との関係を密接にし、教育・研究・文化活動などを通して社会貢献に寄与するなど、学校独自の工夫によって管理・運営された特色ある施設として有効に機能している。

II 事項ごとの評価

選択的評価事項A 研究活動の状況

高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていること。

【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

(評価結果の根拠・理由)

A-1-① 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

中期計画において、取り組むべき研究領域を「開発型研究、ものづくり型研究、地域密着型研究及びそれらの基盤となる研究」と設定し、当該事項に関する目的を「1. 徳山高専に適した効果的な教育を実現し、特色ある創造教育を推進する」、「2. 研究資金を確保し、地域社会に貢献することである」と定め、さらに具体的な研究の活動を「①地域密着型研究、開発型研究、ものづくり型研究で得られた最先端技術、社会的ニーズなどを授業に生かす」、「②専攻科生の特別研究や本科の卒業研究に地域企業との共同研究を積極的に取り入れる」、「③従来の専門分野での共同研究に加え、複合領域にまたがる地場企業のニーズを「テクノ・リフレッシュ教育センター」を通じて調査し、技術相談、共同研究に教員が共同で対応する」としている。

これらの目的を遂行するための体制として、「テクノ・リフレッシュ教育センター」及び「テクノ・アカデミア」が設置されているほか、教員の研究活動に対する情報提供や共同研究推進の窓口として庶務課地域連携推進係が組織され、地域産業界との連携強化が図られるなど、機能している。また、研究成果を特許につなげることを目的とした知的財産委員会が設置され、すべての研究成果に対し、特許出願の可能性が検討されているとともに、「特別研究促進費」及び「特別教育設備整備費」など教員の教育研究活動に対する財政的な支援体制も整備され、研究活動の発展・向上が図られるなど、機能している。

これらのことから、研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、十分に機能していると判断する。

A-1-② 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

研究の目的に沿った活動の成果として、共同研究や卒業研究を含むすべての研究成果が、知的財産委員会を中心に特許出願の可能性が検討され、その成果として学生による商品開発や特許出願に至る事例もあり、これまで行ってきた創造教育に対し、優れた成果を上げている。また、この5年間における外部資金は増加しており、共同研究の契約件数も増加していることなどから、掲げる2つの目的に対して活動の成果が上がっている。

また、設定された研究の活動についても、「①地域密着型研究、開発型研究、ものづくり型研究で得られた最先端技術、社会的ニーズなどを授業に生かす」に対しては、教員が独自に行った研究、地元企業と共同で設立した研究会をベースとした研究、あるいは企業と共同で行った研究で得られた最先端技術、社会的ニーズなどが、「生体機械力学」(機械制御工学専攻・選択)などに取り入れられるなど、関係する教員の学習内容として活用されており、当該授業科目のシラバスにも示されている。「②専攻科生の特別研究や本科の卒業研究に地域企業との共同研究を積極的に取り入れる」についても、テクノ・リフレッシュ教

育センターの年報に記載されている共同研究の受入状況と卒業研究・特別研究の比較により、達成されている。「③従来の専門分野での共同研究に加え、複合領域にまたがる地場企業のニーズを「テクノ・リフレッシュ教育センター」を通じて調査し、技術相談、共同研究に教員が共同で対応する」については、共同研究の件数が増加しており、テクノ・リフレッシュ教育センターの年報における資料から、技術相談が機能しているなど、それぞれ設定された活動の成果が十分に上がっている。

これらのことから、研究の目的に沿った活動の成果が十分に上げられていると判断する。

： A-1-③ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。 ：

目的に対する研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制として、学内の競争的資金が整備されているとともに、知的財産委員会における活動が機能している。

学内の競争的資金による取組では、教育研究の競争的環境を創出することにより、教育研究活動の活性化とその質の向上、地域社会との連携強化・推進を目的とした「競争的資金に関する運用方針」が定められ、同運用方針において、学内の競争的資金として「特別研究促進費」が設けられている。この資金への応募を通して、研究者間での競争意識向上と研究活動の活性化が図られているのみならず、採択者には、参加者に学外者も含む、中間報告会・成果報告会でのレビューと公表が義務付けられており、組織的に実施状況や問題点を把握し、改善策などが検討されるなど、効果的な体制が整備され、機能している。

知的財産委員会は、すべての研究成果（卒業研究論文、特別研究論文、学会発表等の内容、研究成果の内容）を対象とし、特許出願の可能性を審査する取組が行われており、研究活動の実施状況が把握・評価され、知的財産の創出・活用などに機能している。

そのほか、「テクノ・アカデミア」の運営委員会や役員会において、研究活動の問題点について議論され、会員企業との円滑な研究活動の推進と活性化に向けた方策として、平成12年度には、テクノ・アカデミア会員企業との共同研究などを行う際、活動資金の一部が援助される「テクノ・アカデミア共同研究」が整備され、窓口となる「テクノ・リフレッシュ教育センター」によって研究活動の実施状況などが把握され、活用されている。

これらのことから、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

【優れた点】

- 知的財産委員会において、すべての研究成果（卒業研究論文、特別研究論文、学会発表等の内容、研究成果の内容）を対象として、特許出願を考慮した新規性の検討を行い、教員にフィードバックするなど、研究活動を支援・促進するシステムとして機能し、特許取得や商品開発など効果も上がっている。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

高等専門学校の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

(評価結果の根拠・理由)

B-1-① 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的として、「1. 地域社会等との連携・協力、社会サービス等の推進、2. インターンシップの推進など教育に関する産学連携、3. 広報の充実」を掲げている。このことは、中期計画に目標の一つとして掲げ、その具体的方策を策定しており、その内容は、ウェブサイトなどを通して広く公表されている。

各目的に関する実施状況として、「1. 地域社会等との連携・協力、社会サービス等の推進」に対しては、地域からの依頼による各種委員・講師としての活動、徳山高専夢広場における「イングリッシュルーム」の開催、「夏休みジュニア科学教室」、「周南オープンカレッジ」、各種公開講座など学校をあげて多彩に実施されている。「2. インターンシップの推進など教育に関する産学連携」に対しては、徳山大学、長岡技術科学大学からの学生の受け入れなどが行われ、「3. 広報の充実」に対しては、徳山高専夢広場を活用した各種情報が発信されている。これらの活動は、テクノ・リフレッシュ教育センターが主催するサービスに関しては「テクノセンター運営会議」が、街中拠点である徳山高専夢広場で行われる企画に関しては「サテライト運営委員会」が担当するなど、担当する各組織において個別に実施されているが、すべての情報は庶務課地域連携推進係で管理されており、相互に連携がとれる体制を整備している。

また、徳山高専夢広場については、正規課程の学生以外への教育サービス活動をはじめ様々な取組に活用されており、地域社会との連携・協力体制の下、街中のサテライト施設として地域と学校との関係を密接にし、教育・研究・文化活動などを通して社会貢献に寄与するなど、学校独自の工夫によって管理・運営された特色ある施設として有効に機能している。

これらのことから、教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断する。

B-1-② サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

サービス享受者からの満足度については、各担当組織が実施するアンケート結果から、公開講座については、子供や保護者にも充実した内容で実施されていること、周南オープンカレッジについては、受講料に見合った内容が実施されていること、夏休みジュニア科学教室については、子供たちの興味に適合した内容で実施されていることなど、それぞれのサービスが十分満足の得られる内容で実施されている。

また、市民への教育サービスとして、英会話が気軽に楽しめる広場「イングリッシュルーム」など、学校が主催する各種イベント（公開講座、人材養成講座、技術研修会等）の開催については、ウェブサイトへの掲載によって周知が図られるなど、サービス享受者への広報サービスにも配慮されており、各種研修・

セミナー等の実施状況、参加者数の状況と照らし合わせて活動の成果が十分に上がっている。

改善のための取組としては、「サテライト運営委員会」において、アンケート結果に基づき、次回の開催時期や実施内容が検討されるなど、担当する各部署において、アンケート結果などを基に改善が図られている。

これらのことから、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が十分に上がっており、また、改善のためのシステムがあり、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

【優れた点】

- 中期計画において、正規課程の学生以外に対する教育サービスの目標を明確に位置付け、徳山高専夢広場における「イングリッシュルーム」、「夏休みジュニア科学教室」、「周南オープンカレッジ」、各種公開講座などが、学校をあげて多彩に取り組まれているとともに、幅広く継続的に企画・実施されている。
- 徳山高専夢広場は、正規課程の学生以外への教育サービス活動をはじめ様々な取組に活用されており、地域社会との連携・協力体制の下、街中のサテライト施設として地域と学校との関係を密接にし、教育・研究・文化活動などを通して社会貢献に寄与するなど、学校独自の工夫によって管理・運営された特色ある施設として有効に機能している。

<参 考>

i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

1 現況

(1) 高等専門学校名

徳山工業高等専門学校

(2) 所在地

山口県周南市

(3) 学科等構成

学 科：

機械電気工学科，情報電子工学科，
土木建築工学科

専攻科：

機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，
環境建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成18年5月1日現在)

学生数：学 科 645名

専攻科 48名

教員数：66名（校長含む）

2 特徴

・伝統、建学の精神、理念など

本校は、3つの複合学科および専攻より成り、それぞれの境界領域を含めた専門分野において基礎理論の習熟とともに実験実習に重点をおいた教育を行い、実技に明るく、総合判断力に優れた実践的技術者の養成をめざしている。開学（昭和49年）当初から、開発型教育に力を注いできており、ロボコンを始めとする各種コンテストや創造教育に係る受賞などで多くの実績を有している。

なお、本科低学年は混合学級制度が採用され、得意とする技術分野の異なる学生同士が交流しやすい環境にある。

平成6年に「テクノ・リフレッシュ教育センター」を、さらに平成9年には高専と地場の企業との連携を行う「徳山高専テクノ・アカデミア」を創設し、地域の企業との共同研究などを通じ、実際の現場の問題を解決することによって、実践力のある技術者の育成に努めてきた。

・創造教育

高専が早期創造教育の可能な高等教育機関であるとの認識から、創造性育成のための教育方法の開発と実践を積極的に進めている。平成7年度からは機械電気工学科で、平成8年度からは情報電子工学科および土木建築工学科で創造演習の時間を新設し、学生の自発性、創造性育成の取り組みを開始した。創造教育では、自分自身で課題を見出し、自らの発

想により答えをみつけ、新しいものを生み出す力を養成することを目的としている。

・専攻科教育

平成7年度に、専攻科を設置した。修了に際しては、研究の成果をまとめ、世に問う経験を積むため、特別研究の成果について、設置当初から、学協会での発表を修了要件として義務づけている。国際会議を含め毎年30件程度の発表があり、優秀講演表彰なども受けてきている。さらに平成12年度から、TOEICスコア400以上の取得を、また平成14年度から、情報関連等外部資格の取得も修了要件としている。平成15年度には工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定の本審査を受審し、プログラム認定された。カリキュラム上の特色は、情報技術、英語力およびプレゼンテーション能力の向上に力を注いでいること、ならびに高専教育の特色である実践的な開発型教育の充実にある。なかでも、専攻科1年次前期のインターンシップ（約3ヶ月）期間中、実務経験のなかから発掘した課題に関する特別研究の例や、知的財産管理、経営管理の授業など、地元企業との協力による教育に特色がある。

・新しい取り組み

英語力の向上に資するため、平成14年度に開始した海外研修助成制度により、シドニー工科大学などにおいて、毎年、十数名の学生が語学研修に参加している。また、平成14年度には、英語のネットワーク・ラーニング・システム(e-Learning)も導入し、学生の自主的な学習を促進している。さらに、UCSDはじめ海外の大学と学術交流協定も締結している。

本校の活動について地域の理解を深め、同時に広く意見を求めるために、チャレンジショップ「高専夢広場」を平成14年度に開設した。その企画・運営には学生も参画している。さらに、平成17年度の周南市「ひと・輝きプロジェクト」においては、公募により採択された10件のうち、過半数に本校教職員が関与している。

平成15年度に徳山高専および周南市を舞台に制作された映画「ロボコン」では、高専の教育活動や周南市の国内への広報役を担った。さらに、平成17年度には山口県東部で初の国際会議「第3回構造成工学と建設に関する国際会議(ISEC-03)」を本校において開催し、世界に通用する教育研究機関の一端を世界に発信した。

ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

徳山工業高等専門学校の使命

学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

1 教育理念

○ 準学士課程の学習・教育目標と具体的到達目標

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

(B 2) 自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

(C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・創造系の科目を修得する

・創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う

○ 専攻科課程の学習・教育目標と具体的到達目標

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

・学士を取得する

(A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・TOEICにおいて400以上のスコアを取得する

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

・情報関連等外部資格を取得する

(B 2) 自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

・総合科目（2科目以上）及び総合演習の科目を修得する

(C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する

・国内外の学協会での発表を行う

2 養成しようとする技術者像

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者

○ 本科卒業生のめざす技術者象と到達目標

自らの業務における技術的課題を解決できる技術者

○ 専攻科修了生のめざす技術者象と到達目標

自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者

3 各学科／専攻で修得する技術

準学士課程と専攻科課程が1対1で対応しているため、双方のめざす技術者像も踏まえて、学科／専攻を通して修得する技術を明確に定めている。

○機械電気工学科／機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」／

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

○情報電子工学科／情報電子工学専攻

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」／

「コンピュータを核とする多用なシステムを設計・開発する技術」

○土木建築工学科／環境建設工学専攻

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」／

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

教育活動等の基本的な方針，教育目標等

1 教育，研究，社会との連携，国際交流等に関する目標

既存概念にとらわれずチャレンジ精神をもって教育・研究に取り組むとともに，地域に根ざした高専づくりを推進し，世界に認められる個性をもった教育界のオンリーワンをめざす。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

情報収集・分析，学校運営の企画・総合調整を行う「総合企画室」を設置し，学内運営の円滑化，効率化を行う。地域協力を発展させるために，「テクノ・リフレッシュ教育センター」の見直しと，知的財産に関する業務の強化を行う。「学習・教育レビュー室」を設置し，業務の持続的発展を可能とする評価改善システムを構築する。

3 財務内容の改善に関する目標

国立高等専門学校機構の定めた中期計画による効率化を踏まえ，従来業務に係る経費の削減を行うとともに，新規業務に対する戦略的な資金投入を行う。また，外部資金の積極的な導入を進め，総経費の5%程度を外部資金（知的財産の活用に伴う資金も含む。）により確保する。

4 社会への説明責任に関する目標

ウェブサイトの充実などによる可能な限りの情報公開，授業や卒業研究の成果の公開，シラバスの内容，授業評価の内容などの公開，教員の研究成果などの開示を通して，社会に対する説明責任能力を高める。

5 その他業務運営に関する重要目標

日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を継続するとともに，本校教育の高度化と教員の業績向上により国際的同等性を確保し，専攻科修了生の学位授与を実質的に可能とする。

iii 選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校の中期計画では、徳山高専において取り組むべき研究領域は、「開発型研究，ものづくり型研究，地域密着型研究及びそれらの基盤となる研究」であり，研究活動の目的を次のとおり定めている。

1. 徳山高専に適した効果的な教育を実現し，特色のある創造教育を推進する。
2. 研究資金を確保し，地域社会に貢献する。

具体的には，以下の活動に結びつく研究を行う。

- ・地域密着型研究，開発型研究，ものづくり型研究で得られた最先端技術，社会的ニーズなどを授業に生かす。
- ・専攻科生の特別研究や本科の卒業研究に地域企業との共同研究を積極的に取り入れる。
- ・従来の専門分野での共同研究に加え，複合領域にまたがる地場企業のニーズを「テクノ・リフレッシュ教育センター」を通じて調査し，技術相談，共同研究に教員が共同で対応する。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

1. 地域社会等との連携・協力，社会サービス等の推進

「テクノ・リフレッシュ教育センター」，「徳山高専テクノ・アカデミア」（地元企業の本校への支援組織）が協力して地域に根ざした高専づくりを行い，月例の講演会，シンポジウム，産業技術フォーラムin山口，各種人材養成講座，公開講座などを発展させる。

また，小中学生を対象とした「夏休み小学生工作体験教室」，中学生を対象とした「大学等地域開放特別事業」のほか，小学生から一般社会人を対象とした公開講座をさらに充実発展させる。

さらに，地方公共団体，周辺大学等と連携し実施している周南サテライトカレッジ，周南オープンカレッジについても今後継続し発展させるとともに，山口県をはじめとした地元自治体，山口県産業技術センター及び周南地域地場産業振興センター，徳山大学等との連携を強化する。

2. インターンシップの推進など教育に関する産学連携の推進

「徳山高専テクノ・アカデミア」参加企業との産学連携を軸とした教育研究をすでに実施しており，今後更に産学連携の強化を図る。

徳山大学，長岡技術科学大学，豊橋技術科学大学との連携を強化する。

3. 広報の充実

「総合企画室」でタイムリーな広報物の企画・発行を行う。同時に，すべての広報物の目的，対象，効果を調査・検討し，その見直しと統一的管理を行う。その際，電子媒体と冊子の使い分け，重ね合わせを行うことにより広報物の改善と広報効果の効率化を図る。また，2002年度に「Live & Active」と銘打って全面改訂を行ったウェブサイトおよび周南市街地に開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して，学外の意見を収集するとともに，教育，研究，文化活動に関するリアルタイムな情報発信を行う。

iv 自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

1 選択的評価事項A 研究活動の状況

教員個々の教育研究活動に対して、学内における資金的な支援体制と情報提供の制度が整備され、研究実績、共同研究ならびに外部資金獲得額の増加につながっている。

地域産業界との連携に関しては、テクノ・リフレッシュ教育センターならびにテクノ・アカデミアを通じて交流を行い、研究成果の実用化や発明の成果をあげている。その他すべての研究成果も特許出願を視野に入れた取り組みが行われている。

教員の教育研究成果は学生への指導に反映され、学生による商品開発や特許取得が行われている。

2 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

正規課程の学生以外に対する教育サービスを、地域に根ざした高専づくりとして本校中期計画のなかで明確に目的として示している。またその具体的な方策も中期計画のなかに示している。

テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアとの連携で行っている、技術研修、人材養成は、地場企業の要請に対応する内容を計画的に実施している。また、各種公開講座は、一般市民の生涯学習に関係するものから、小中学生に対する自然や科学に対する興味関心を引き出すものまで、幅広く計画的、持続的に実施している。また、本校ウェブサイトを用いた広報活動も適宜行われ、十分な情報を発信している。

周南市の市街地に徳山高専夢広場という活動拠点を持ち、そこで、本校学生も参加した、一般市民を対象としたイベントを定期的に開催している。また、市民の目に触れやすいという特色を生かし、各種の情報発信も積極的に行っている。

これまでに開催した各種公開講座、研修会、セミナーなどは、開催回数、参加者数、アンケート結果などで十分な成果を上げ、その目的を達成している。また、アンケート結果から希望する講座内容を次回に反映させるなど、テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアを中心とした、改善のためのシステムがあり、有効に機能している。

大学学部生、院生の教育に関する大学との連携も始まっており、今後の発展が期待される。

v 自己評価書等リンク先

徳山工業高等専門学校のホームページ及び機構に提出した自己評価書本文については、以下のアドレスからご参照下さい。

なお、自己評価書で根拠とされた資料等は、自己評価書に含まれております。

徳山工業高等専門学校	ホームページ	http://www.tokuyama.ac.jp
------------	--------	---

機構	ホームページ	http://www.niad.ac.jp/
----	--------	---

	自己評価書	http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou200703/kousen/jiko_tokuyamakousen.pdf
--	-------	---

